

柏原市民文化センター長寿命化改修工事
基本構想
(案)

令和6年4月
柏原市民文化センター
(柏原図書館・公民館本館)

1. 経過と現状

(1) 経過と現状

① 建物の概要

建築年	昭和 53 年（1978 年）
面積	施設延べ床面積 2850.05 m ² (図書館 921.35 m ² 公民館 1918.80 m ² 、倉庫 9.90 m ²)
構造	鉄筋コンクリート造 4 階建

② 建物の現状

現在の市民文化センターは、昭和 53 年に建築され、築 46 年が経過しており、躯体コンクリートの中性化や漏水の発生、空調やエレベーターなどの各種設備の老朽化が進んでいます。また、1981 年（昭和 56 年）以前の旧耐震基準で建設された建物であることから、現行の耐震基準に適合した整備を行う必要があり、現在のサービスを継続していく上では、耐震性能の確保を踏まえた大規模改修が必要です。

③ 耐震診断の結果

昭和 53 年に旧耐震基準で建設された建物あることから、新耐震基準における耐震性能を評価するため、令和 2 年に耐震診断を実施しました。

その結果、診断時点における建物の耐震性能を表す構造体新指標(Is 値)の最小値が 0.24 と評価され、平成 18 年 1 月 25 日国土交通省告示第 184 号における「地震の振動及び衝撃に対して倒壊し、又は崩壊する危険性が低い」の範囲にないため、耐震補強等の対策が必要であると評価されました。

(2) 公共施設等再編整備基本計画における検討

将来的に人口減少や少子高齢化の影響などによる厳しい財政運営が見込まれるため、本市では公共施設の集約化、複合化などの検討を目的とした「柏原市公共施設等再編整備検討委員会」を設置し、同委員会にて市民文化センターの整備方針について検討を行いました。

同委員会が策定した公共施設等再編整備基本計画（以下、「再編整備基本計画」）案では、市民文化センターの公民館機能は JR 柏原駅前の市民プラザに、図書館機能は柏原市民文化会館（リビエールホール）を改修して機能移転する案が示されました。しかし、市民から立地条件の良い現在の場所での継続を望む多くの意見がありましたことから、市民文化センターは現在の場所での事業継続を含め再検討することとしました。

その後、建替えを含めた検討を進めておりましたが、2024年1月に発生した能登半島地震を受け、本市では、安全確保や老朽化への早急な対応が必要な状況であると判断しました。

そのうえで、市民文化センター整備事業のスケジュールの短縮に当って建替えと長寿命化改修を比較検討した結果、長寿命化改修による事業手法を採用することが早期の事業着手に繋がり、事業スケジュール上、有利となると考えました。また、費用面においても、建替えに比べ総事業費が安く抑えられることに加え、「公共施設等適正管理推進事業債（長寿命化事業）」の活用により財政負担を軽減できることを踏まえ、市民文化センターの長寿命化改修によるリニューアル工事を実施することとしました。

(3) 利用状況

【柏原図書館】・蔵書数は約13万冊、利用者数は年間約5万人前後で推移しています。

- ・多頻度、長時間の利用も多く、利用者層は固定化されている傾向にあります。
- ・電子書籍利用に伴う登録者数が伸び悩んでいます。

【公民館本館】・貸室では講座室、実習室が他の室に比べて稼働率が高い傾向にあります。

- ・大規模イベントに利用される講堂は、300人での利用を想定して整備されています。しかし、室の稼働率は一定あるものの、想定していた300人規模での利用が少ない現状となっています。

【年度別利用状況推移】

年 度	図書館利用者数	公民館利用者数
令和元年度	54,350人	28,698人
令和2年度	44,763人	8,676人
令和3年度	48,227人	10,367人
令和4年度	54,547人	20,172人
令和5年度	56,581人	21,816人

(4) 現状の施設が抱える課題

建物機能	<p>【柏原図書館】</p> <ul style="list-style-type: none">・閲覧スペースの狭さ、座席数などの面で、滞在できる環境が不十分となっています。・さまざまな利用者のニーズに対応できるフリースペースが無く、児童向けスペースも狭隘です。・一般図書と児童図書の空間分離ができておらず、利用者の苦情もあります。・電子書籍の導入方針に関しては、さまざまな人がさまざま態様で利用できる読書バリアフリー化を目指し、電子書籍コンテンツの充実が必要です。・職員の作業動線が考慮されておらず、運営上、非効率な機能配置となっています。・閉架書庫の収容力が十分でなく、リニューアルに合わせた機能向上が必要となっています。 <p>【公民館本館】</p> <ul style="list-style-type: none">・施設の老朽化による空調やトイレ、各部屋の設備の故障への対応が難しくなってきました。・市民文化センターの2階、3階に位置するため、閉鎖的な雰囲気があります。・稼働率や利用想定人数などの利用状況を踏まえた講堂の多目的な利用方法を検討する必要があります。
アクセス 周辺環境	<ul style="list-style-type: none">・エントランスが主要な北側道路から視認できません。・駐輪場の配置が分散している等、建物外部の空間の効率的な利用が図れていません。・上市公園に面していますが、周囲の環境との一体性がなく賑わいに欠けています。

2. 市の財政状況と公共施設の長寿命化に関する全国の動向

(1) 市の財政状況

少子高齢化や人口減少などにより歳入の増加が見込めない中、歳出では、社会保障関係費や、大型事業経費に伴う基金の取崩額や市債の発行額も増加傾向にあり、今後も厳しい財政運営が見込まれます。

また令和5年10月に策定された再編整備基本計画においても今後の人口減少や厳しい財政運営を踏まえ、公共施設の老朽化への対応と総量削減のため、新たな施設の建設は極力避け、既存施設を活用する方針が示されています。

(2) 公共施設の長寿命化に向けた国の考えなど

国においては「新しく造ること」から「賢く使うこと」への重点化が課題であるとの認識のもと、平成29年度には、公共施設の長寿命化事業に対して、交付税措置のある有利な起債を設け、既存施設の有効活用を図っています。

また、文部科学省の「学校施設の長寿命化計画策定に係る手引」において

- ・長寿命化改修を行うことによって、改築と比較して構造体（柱や梁）の工事が大幅に減少するため、工事費用の縮減や工期の短縮を行うことができる。
- ・長寿命化改修は構造躯体を再利用するため、改築と比べて廃棄物排出量や二酸化炭素発生量が減少し、大幅に環境負荷が低減する。そのため、地球温暖化をはじめとする環境問題への対応策としても重要である。
- ・適切な維持管理がなされ、コンクリート及び鉄筋の強度が確保される場合には70～80年程度、さらに技術的には100年以上持たせるような長寿命化も可能である。

など、長寿命化改修の利点が示されています。

全国の自治体では、築50年程度の施設の耐震補強を伴う大規模改修を行う事例などもあり、今後も公共施設の長寿命化の取り組みは増加していくものと考えられます。

3. 市民文化センターの整備方針

(1) 市民文化センターのめざす姿

柏原図書館と公民館本館との複合施設とし、市民誰もが安全・安心・快適に利用できる空間や環境整備を行い、双方の機能を維持しつつ、デジタル技術の導入等を図る中で、特徴ある機能をもたせていきます。

また、施設の多目的利用の展開を図り、利用者サービスの増進と、より

効果的な施設サービスを目指します。

加えて、市民文化センターに隣接する上市公園との一体的な活用による賑わい及び多様な交流ができる空間づくりを行い「地域（まち）に開かれる生涯教育・文化情報の拠点」としての整備を行います。

（2）整備方針

【柏原図書館】

- ①安心・安全で、時代に即した利用しやすい施設を目指します。
 - ・耐震補強を含む長寿命化改修することにあわせ、老朽化した設備の更新を行い、市民ニーズに対応したレイアウトを創出します。
 - ・さまざまなバリアフリー化や省エネ化といった社会的課題へ対応します。

- ②誰もが、いつでも、気軽に利用できる施設を目指します。
 - ・暮らしや学習に役立つ様々な「知」に触れ、生涯学習の拠点、児童向けスペースの充実等、誰もが気軽に立ち寄ることができる滞在型図書館を目指します。
 - ・館内での十分なフリースペースを確保し、上市公園および公民館機能との融合により、開放的で自由な居心地の良い空間を提供します。
 - ・さまざまな利用者のニーズに対応できるゾーニングや閲覧環境に配慮したレイアウトを設定します。

- ③新たな地域の賑わいにつながる施設を目指します
 - ・立地条件を生かし、隣接する都市公園との一体的な整備により、新たな賑わいづくりの拠点として、市民に親しまれ、地域の賑わいにつながる空間を目指します。
 - ・若年層や子育て層が魅力を感じる空間とし、キッチンカーや図書館マルシェなどのイベントスペースを設けます。

【公民館本館】

- ①ユニバーサルデザインへの配慮など、幅広い利用者が安全・安心に利用できる施設であるとともに、地域の避難所機能を備えた施設とします。また、耐震改修にあたっては、動線や貸室などの利用者エリアや執務環境の利便性及び機能性が可能な限り低下しないような計画とします。

- ②空調設備や、トイレの整備など、誰もが快適に利用できる環境づくりを進めるとともに、脱炭素社会に向けた省エネ対策等を図るなど、現代の

社会的要請に応じた施設の長寿命化を図ります。

- ③多様な学習や、市民のライフステージに応じた、利用効率の高い、コンパクトながら機能性・柔軟性を備えた施設とします。
- ④防音設備や、多目的に利用できる部屋を整備し、イベントの開催や発表の場を提供できる施設とします。
- ⑤ロビーやラウンジ、フリースペースなどを充実させ、出会いと多世代交流を生み出す施設づくりを目指します。

(3) 機能配置イメージ

3F	公民館	活動室（防音）、研修室等
2F	図書館・公民館の複合機能	学習コーナー、ギャラリー、展示スペース、各種実習室等
1F	図書館	閲覧スペース（一般図書、児童図書）、閉架書庫、オープンテラス等



(4) 長寿命化改修工事の内容

本施設では、耐震補強による安全性の向上を図るとともに長寿命化や省エネルギー化、バリアフリー化工事などにより、建物機能や利便性を向上させることで耐用年数を超えて使用できる建物の実現を目指します。

建物は、構造体の劣化対策やライフラインの更新などにより致命的な損傷の発現を事前に防ぐとともに、建物を健全な状態に保つための予防的な改修工事を実施します。

設備機器については、建物の長寿命化を図るための予防的な改修工事であることから、全ての設備やライフラインの更新を基本とします。

